

F—28 設置学科からみた家政系短期大学教育の考察

東京文化短大 ○沢野 勉
松岡 明子

1. 家政学でとり扱われる食物、被服、児童、住居などの諸分野が、短期大学の教育の中でどのように配置されてきたかを、主として設置学科の推移から検討し、併せてそこに学ぶ学生の意識を把握し、家政系教育の方向を探ることを目的とした。

2. 文部省大学学術局短期大学一覧、大学一覧、学校基本調査をもとに分析検討を加え、さらに若干の短期大学学生の実態調査をおこなった。

3. 過去 10 余年の間に、家政学関連学科としての児童教育関係の学科が大幅に増加して、昭和 34 年を基準とした指数(昭和 44 年)は、短期大学学生総数では 196 であるのに対し、児童教育関係は 596 で増加率は最大である。芸術(とくに音楽)が 388 でこれについている。家政科も 208 で平均よりやや多い。当初この間の短期大学の女子の入学者は、少なかった法経商、工学関係の学科においても漸次増加をみて、全体として女子の比率は高まってきている傾向がみられる。

児童教育関係学科のいちじるしい増加とともに、学生の意識や卒業後の動向も注視しなければならないが、現実の学生の意識には専門職と結びつけて考える風潮が稀薄な点もあり、一部栄養士養成においてみられたと同様の現象があらわれて、今後の問題として残ると考えられる。その他、4 年制の学科との比較をおこなった。